

賀川豊彦記念館・資料館の紹介



多くの社会活動に携わった賀川豊彦の活動を伝える記念館や資料館がいくつもあるのをご存知ですか。賀川豊彦をテーマに開催する2017年度日本共済協会セミナーと本誌の連動企画として、賀川記念館・資料館を一同に紹介します。

研修に、また旅行や出張の折に足を延ばして、賀川の足跡を学んでみてはいかがでしょうか。

＜ご紹介する記念館・資料館＞

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 賀川豊彦記念 松沢資料館（東京都世田谷区） | 2. 本所賀川記念館（東京都墨田区） |
| 3. 賀川記念館（兵庫県神戸市） | 4. コープこうべ協同学苑史料館（兵庫県三木市） |
| 5. 鳴門市賀川豊彦記念館（徳島県鳴門市） | 新たな記念館保存の動き & 友愛労働歴史館企画展 |

公益財団法人 賀川事業団 雲柱社 賀川豊彦記念 松沢資料館

一日の乗降客数世界一を誇る新宿駅から15分程度の京王線北沢駅を出て徒歩数分、都心の喧騒からは想像もつかない閑静な住宅街のなかに松沢資料館があります。

この地は、まだ松澤村と呼ばれていた1931年に賀川豊彦が「松沢教会」と「松沢幼稚園」を設立し、自身も移り住んだところです。賀川思想を受け敷地には樹木が多く、建物は建て替えられています。同じ敷地に現在も幼稚園（学校法人雲柱社松沢幼稚園）があり、すぐ隣には教会（日本キリスト教団松沢教会）があります。また保育園、福祉作業所、学童クラブを運営する社会福祉法人雲柱社の事務局もおかれ、



賀川豊彦の興した事業を継承する拠点ともなっています。

松沢資料館は、賀川の終の

棲家となったこの地で、ミュージアムも兼ねた資料館として1982年10月2日にオープンし、賀川豊彦生誕100年記念（1988年）事業の拠点となりました。現在も、賀川研究の中核として、その他の賀川豊彦記念館・資料館の連携の中心的な役割を果たしています。

松沢資料館では、金井新二館長（東京大学名誉教授）、杉浦秀典副館長にお話を伺いました。

資料館の建設は、賀川豊彦生誕100年の記念の柱となる事業として発案されたものです。地域の活動を支援するための賀川記念館は神戸や本所に既にありましたが、賀川が暮らしたこの地にあったたくさんの資料を保存し、伝えていくアーカイブを作ろうということになったそうです。建設資金を募金で集めましたが、募金活動の呼びかけ人には、当時の総理大臣鈴木善幸氏、前総理大臣三木武夫氏をはじめ、JAや日本生協連の会長など錚々たる方々が名を連ねるほど、

賀川は偉大な思想家、実践家として多くの方々に慕われていました。

賀川豊彦に関する多くの資料は1階および地下1階に収蔵されています。収蔵庫は、一般には公開されていません（学術・教育機関の研究のために事前申込がある場合のみ閲覧可能）が、原稿や映像・写真、賀川家からの寄贈された資料、明治学院大学や個人から寄贈された蔵書など膨大な資料が保管され、現在も蒐集を続けています。賀川を研究している方々が、資料を閲覧するだけでなく、賀川研究の第一人者でもいらっしゃる金井館長にアドバイスを求めにもやってくるそうです。

2階の展示フロアは、中庭を囲んで回廊のようになっており、賀川豊彦の生涯と関係した社会事業についてのパネルや資料を見ることができます。思いやりを経済活動とした協同組合の祖としてだけでなく、教育や世界平和に尽力し海外にも大きな影響を与えた賀川の姿も知ることができます。予約をすればスタッフによる説明も聞くことができますので、折角訪れるのでしたら、ぜひご予約ください。

同フロアにある広場には、賀川がデザインしたステンドグラスのある当初の木造教会が移築され講堂としても使われています。

また、常設展示のほか、特別展示をすることもあり、今年には世田谷地域風景資産に上北沢地域の「賀川豊彦と松沢の教会・幼稚園・資料館」



が選定されたことを受けて特別展「賀川豊彦と松澤村」が開催されました。

近年は、資料館であると同時に社会教育機関としての研修に力をいれて取り組んでいることから、多くの協同組合の役職員や組合員の研修の場となっています。

松沢資料館では、賀川豊彦を通じて、総合的に協同組合を学ぶことも、各団体に合わせて学ぶこともできることから、自分たちのアイデンティティを確認（再確認）するために、また理念の原点にある賀川豊彦を学ぶために訪れるのです。賀川豊彦が設立に直接関係していない団体でも、協同組合の精神の基にある賀川豊彦を学ぼうという動きも広がっているとのこと。

研修の多くは10～30名程度で行われています。移築された教会の講堂で館長または講師から賀川の生涯についての講演を聴いた後、説明を聞きながら展示を見学し、賀川豊彦の足跡と立ち上げた社会事業について学習します。また、オプションですが、最後に小グループでのディスカッションと発表を行うことで、参加者自身がより深く考えられるようになっており、それぞれの場に帰ってから学んだ理念を実践に生かしてもらえよう工夫がされています。



毎年1月には、賛助会員の様々な協同組合の
中堅職員が参加する「カガワ協同組合スクー
リング」が開催されています。ここでは、日頃接
点のない団体の職員が入り交じって2時間のデ
ィスカッションが行われることもあり、協同組
合間協同に繋がる貴重な場となっています。

賀川豊彦に関する研究や啓発の進展をはかる



ために、2016年度からは、賀川が設立した松沢
生活協同組合が解散する際に寄贈した財産をも
とに「賀川豊彦賞」を創設し、「出版助成」も行
っています。第1回賀川豊彦賞は、ホームレス
を支援するNPO法人抱樸の理事長、奥田知志氏
が受賞しました。

また、資料館の運営に支援いただく賛助会員
(個人、法人ともにどなたでもなれます。)に向
け、機関誌「雲の柱」(年1回)、「資料館ニュー
ス」、「賀川豊彦と協同組合」(各年2回)を発行
しています。

《アクセス情報》

京王線 上北沢駅から徒歩3分

〒156-0057

東京都世田谷区上北沢3-8-19

TEL 03-3302-2855

* 詳しい情報や開館案内・アクセス等は
<http://zaidan.unchusha.com/>

本所賀川記念館

本所賀川記念館は、関東大震災の救援活動に
身を投じた賀川豊彦たちの精神を継承するこ
とを目的として1969年に建設され、東駒形教会と
光の園保育学校が併設されています。

「罹災した地域住民のために自分には何がで
きるのだろうか?」という思いをもった賀川た
ちは、震災の年にセツルメント本所基督教産業
青年会を組織し、無料診療所や託児所、夜間学
校、宿泊施設などを運営します。その後、「この
地域とともに生き続けよう」と、江東消費組合
や中ノ郷質庫信用組合、東京医療利用組合など
たくさんの協
同組織を建設
し、戦前の協
同組合運動を
リードするこ
とになります。
賀川豊彦



の指導の下で協同組合学校が創設され、多くの
協同組合人に教育の機会を提供する場ともなり
ました。

「ほかの記念館とは違って、賀川の足跡を伝
えるような展示や解説員などは配置していま
せんが、賀川豊彦先生たちが創った社会福祉法
人の職員や関連施設の保育士たちを対象に学習
会や読書会を定期的に開催し、一人ひとりの
職員が自分なりに団体の歴史と賀川精神につ
いて語れるくらいに育てています」(加藤輝勢
子さん/記念館常務理事)。時代とともに変化
する地域のニーズに合わせて姿を変えなが
らボランティア活動も途絶えることなく続
けています。「震災後の本所で活躍した若
者たちのドラマに思いを馳せてほしい。賀
川たちが殉じた福祉の精神を次世代にしっ
かり継承していくことが当記念館の役割
です」という白石義基さん(同理事)

の言葉は、同じく賀川豊彦を源流のひとつとする共済事業に関わる私たちにも強く訴えるものがありました。

隣には中ノ郷信用組合の本店が、近くには関東大震災の被害や救援ボランティアの活動を記録・展示している東京都復興記念館、すみだ郷土文化資料館もあります。先人たちが災害や地域社会とどう向き合ってきたのか、周辺を散策しながら学びを深めてはいかがでしょうか。

《アクセス情報》

都営浅草線 本所吾妻橋駅から徒歩 5 分

〒130-0005

東京都墨田区東駒形 4-6-2

TEL 03-3622-7811

*詳しい情報やアクセス等は

<http://honjo-kagawakinenkan.c.ooco.jp/index.html>

賀川記念館

賀川豊彦にとって、神戸は生誕の地でもあり社会活動をはじめたまさに原点です。賀川記念館は1963年、賀川が活動をはじめたその地にセツルメント（地域の生活改善）事業の拠点として建設されました。現在の建物は2010年に建て替えられたものです。顧問を務めている西義人さんによれば、「百年前の賀川豊彦自身の実践を同じ精神で引き継ぎたい」という強い思いから、記念館の建物には教会や保育園、診療所などが入っているそうです。賀川豊彦がスラムで栄養食を提供していた食堂の名前にちなんで「天国屋」というカフェも入っています。

この館は、展示物のほかに、大型のプロジェクトを含む計20面のモニターで映像が楽しめるというユニークな特徴があります。豊彦の孫で新館の初代館長でデザイナーでもあった故・賀川督明さんの発案で導入されたそうです。地

域との繋がりを大切にし、展示ブースで学ぶだけでなく、語り部を養成し、賀川精神を伝える人たちの創意工夫で展示内容も成長していくような面白い仕掛けになっています。ですから企画展ごとに何度も足を運びピーターも多く、ディズニーランドさながらの「年間パスポート」も発行しています。同じ兵庫県にある協同学苑史料館とも連携し、生協職員の研修教材なども開発しています。

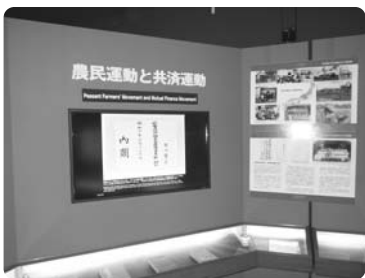
新館の建設は、賀川豊彦が神戸で活動を開始して百年にあたる神戸プロジェクト「献身百年記念事業」のひとつでした。神戸プロジェクト宣言では「私たちは、賀川豊彦の多様な取り組みに出会い、百年を遡って検証し、また新たな百年を見通し、互いの分野や垣根を越えた、現代にふさわしい形を模索することで、多くの課題を解決し、共に生きる社会を実現することを目指す」と謳われています。たくさんの人に賀川豊彦の足跡を知ってもらうことは記念館の役割のひとつですが、さらに一歩も二歩も踏み込んで、賀川豊彦への関心を軸に、多様な人びとを繋ぎ、今後の百年を展望する場を提供することが記念館の中心的役割だということです。地元のコープこうべやJA兵庫、全労済、労金、漁協などの協同組合団体の関係者が定期的に集まり、この記念館で議論を重ねています。また、



外国人の子どもを対象とした大学生の日本語学習ボランティアなど、実際の社会活動もこの場所で行われています。

最近博物館も単に展示だけではなく、いろいろな趣向を凝らすようになっていますが、こんなに多様な学びの形態を合わせ持った記念館は全国でも異例だと思われます。賀川豊彦が協同組合運動の標語に「教育中心」を掲げたのは、知識を詰め込むことを求めてのことではなく、実践と学びとの間の相乗性に気づいていたからではないでしょうか。もしかしたら、はじめて館を訪れた日に同じフロアで全く考えてもみなかった問題への出会いがあるかもしれません。

展示スペースは他館と比べてもそれほど広いわけではありませんが、映像資料をすべて見ながら一巡しようとするれば数時間かかるのではないのでしょうか。賀川が活躍した時代が映像で生き生きと甦ってきます。さらに、賀川記念館の魅力のひとつは研究所を附設していることです。地域で賀川豊彦の活動に興味をもった方たちが自主的に勉強会を開催し、所蔵資料を用いながら今日も新しい事実を発掘しています。研究の中間成果はライドショーとして見ることができますし、解説員の方からより詳しい説明を受けることもできます。5館のなかでさらに特徴的なことは、年3回ほど刊行される機関紙『ボランティア』やホームページを通じた情報発信です。記念館建設の主旨に沿って、多くの地域のメンバーが企画運営に参加していることもあり、研究成果や新しい資料などを次々にネットを通じて公開しています。なかでも、労働者牧師として人権問題などに取り組んだことで賀川精神を受け継ぐ「現代の賀川豊彦」を顕彰する賀川豊彦賞



を最初に受賞された鳥飼慶陽さんが毎日のように自身のブログで更新している



原稿を厳選して掲載したページは、多くの読者から好評を得ています。

「賀川豊彦って誰？」という方から、自分なりの賀川像をもっている方、さらには賀川を研究論文でとりあげたいという学生や研究者まで幅広い方々にとって、賀川記念館は、それぞれに毎回新しい学びを提供してくれる場所になっています。

最後になりますが、記念館に集まった地域の人びと（語り部）による勉強会の成果のひとつが「賀川ウォーク・マップ」の制作です。記念館の周辺は、まさに賀川豊彦とその仲間たちが活躍した場所です。せっかくこの地に訪れたのですから、館内で学ぶだけではもったいないというもの。マップを手にして、賀川の自伝小説『死線を越えて』などで描かれた場所をひとつひとつ訪れてみましょう。賀川記念館は、三宮駅（梅田から半時間）および新幹線新神戸駅から徒歩圏に立地しています。神戸・大阪出張のついでにフラッと立ち寄ることもできますし、記念館と周辺の史跡めぐり（賀川ウォーク）を行う予定なら丸一日ガッツリと堪能することもできます。

《アクセス情報》

JR、阪急、阪神、地下鉄 三宮から徒歩15分

〒651-0076

神戸市中央区吾妻通5-2-20

TEL 078-221-3627

* 詳しい情報や開館案内・アクセス等は
<http://core100.net/index.html>

コープこうべ協同学苑 史料館



兵庫県三木市にあるコープこうべ協同学苑のなかに二階建ての史料館があります。写真を見て三階建じゃないか？と思うかもしれません。それには理由があります。外観は現在の生協の起源とされるイギリスのロッチデール公正開拓者組合が生まれた建物を模して作られているのです。

中に入ると広い空間に置かれたたくさんの展示物が目に入ります。ロバート・オウエンにはじまる世界の協同組合運動の歴史、そして国内の歴史と続き、灘購買組合と神戸購買組合にさかのぼりながら、コープこうべの歴史を写真と史料を通じて学ぶことができます。肖像画とともに、歴史の教科書では教えてくれない多くの先人たちの活躍が解説されています。ほかにも、時代時代の建物や活動を再現したジオラマ、洗剤などの日用品、さらに（驚かれる若い方もいるかもしれませんが）ストーブやテレビといっ



た、かつて実際に作られたコープ商品がずらっと並んでいます。

館内1階を一回りす

ると歴史や人物にも詳しくなりますが、なにより「一人ひとりの組合員の協力がコープこうべを作り上げてきた」ことが実感され、人とその生活をなにより大切にしてきた生協運動の本質に触れることができます。

2階は全面が賀川豊彦特別展示室になっています。スラムで活動していた時代から晩年までの賀川の足跡を辿ることができます。賀川の^轟轟や愛用していた机（レプリカ）、さらにガンジーから贈られた糸車まで賀川豊彦の活動の広がりを感じることができます。コープこうべの歴史、賀川豊彦の活動について学び終わったら、最後に阪神淡路大震災の展示室に向かいましょう。賀川精神がどのように受け継がれてきたのか。震災救援・復興におけるコープこうべや全国の生協の活躍は、賀川精神が具体的に結実したものです。東日本や熊本の震災救援では、この1995年の経験が活かされ、全国の生協が連携して一斉に支援を開始しました。

助け合い・支え合うことの大切さを改めて学ぶことができる協同学苑史料館、予約制ですが職員が丁寧に案内してくれます。協同学苑は宿泊施設も備えていますので、家族や職場、組合員の仲間たちと一緒に泊りがけで訪れてみてはどうでしょうか？

《アクセス情報》

山陽自動車道 三木東ICより約10分
神戸電鉄（粟生線）緑が丘駅から
バス7分、徒歩3分

〒673-0592
兵庫県三木市志染町青山7-1-4
TEL 0794-85-5500

*詳しい情報や開館案内・アクセス等は
<http://www.kobe.coop.or.jp/kouza/kyodogakuen/index.html>

鳴門市賀川豊彦記念館

鳴門市賀川豊彦記念館は、今回紹介する主要記念館のなかでは唯一の公立（市立）の記念館です。賀川豊彦は、5歳から17歳までの間この地徳島で少年時代を送ります。彼の徳島時代にはたくさんのエピソードがありますが、ローガンとマヤスという二人の宣教師の影響でキリスト者になるのもこの徳島の地でのことです。マヤス牧師はその後も神戸での賀川の活動を支え続けることとなります。

さて、賀川豊彦記念館の建物は映画『バルトの楽園』で有名になったドイツ俘虜収容所の近くに作られた牧舎を模したもので、ここで農民福音学校が開講され賀川豊彦本人も毎年のように講義に来ていたそうです。賀川の講演は、大きな紙に筆で走り書きしながら行われるのが特徴ですが、この館の2階には彼の肉筆となる模造紙も複数展示され、演壇に立つ当時の賀川に思いを馳せることができます。賀川が愛用した品々や手書きの書簡、揮毫などもたくさん展示されていますので、1階のパネルスペースだけではなく、ぜひ2階もじっくりとご覧ください。

同館は、地元出身の賀川の活動を顕彰する目的で有志の寄附金を原資に建設され、2002年に鳴門市に寄贈されました。「平和と人権」というコンセプトを中心に賀川の生涯にわたる活動の足跡が展示され、特に国際的な活躍や海外の偉人との交流については同館オリジナルの巨大パネルで学ぶことができます。また、国際人賀川豊彦を育てた徳島・鳴門の「自然」を学んでほしいという思いもあり、賀川豊彦のルーツである徳島を学べるブースもあります。岡田健一館長は、同館の目的について、「賀川の実践と精



神について大人はもちろん、小中学生にも知ってほしい、そのなかで平和や人権、自然の大切さについても学びを深めてほしい」と話されました。賀川の思想が協同組合運動や平和運動、キリスト教だけではなく、強い自然科学への関心の上に形成されたものであることはよく知られています。同館に足を運び、周辺の自然をも楽しむことで、賀川が郷土の自然から「愛」と「協同」の摂理をどのように学んだのか、追体験されてみてはどうでしょうか？すでに賀川について詳しい方もこれまでと違った賀川像を得られるかもしれません。

日本で最初に第九が演奏された地として有名な場所ですので、隣接するドイツ館と一緒に訪れてみてはどうでしょうか？アクセスはよいとは言えませんが、「鳴門西P.A.」に停まる高速バスを使うと徒歩数分という知る人ぞ知る裏ワザがありますので、ぜひお試しあれ。

《アクセス情報》

車：藍住ICより10分、板野ICより7分
JR高徳線 坂東駅から徒歩20分
〒779-0225
徳島県鳴門市大麻町松字東山田50-2
TEL 088-689-5050

* 詳しい情報や開館案内・アクセス等は
<https://www.kagawakan.com/>

— 新たな記念館保存の動き —

御殿場市とその近郊に御厨^{みくりや}と呼ばれた地域があります。そこには、窮状を訴える農村青年の声に応え、賀川豊彦が自費を投じてつくった農村救済のための活動の拠点、御殿場農民福音学校高根学園がありました。

賀川が農業協同組合の必要性を説き、青年たちと共に、立体農業と呼ばれる、人と自然が調和し共存していく多角的な農業を実践していたところです。

設立当時の御殿場農民福音学校高根学園の建物は、現在御殿場市営東グランドにあり



ます。全国には賀川が直接設立にかかわった農民福音学校がいくつかありますが、当時の建物が残っているのは御殿場だけです。しかし、90年近く経ち劣化が進んでいることから、保存の動きが高まっています。

同市には、立体農業を継承する農村青年塾が毎年開催されているYMCA東山荘、雲柱社高根学園（賀川が創設した静岡県初の常設保育園）、松岡洋右の別荘陶磁器館、二の岡ハムなど賀川の足跡をみられるところもあります。

「賀川豊彦記念館（旧御殿場農民福音学校）の顕彰・保存の会（準備会）」の呼びかけ人である消費生活コンサルタントの勝又長生氏は「これからの取り組みがたいへんですが、賀川の協同組合思想と実践の場であったこの建物を保存し、御殿場地方に大きな足跡を残した指導者のことを永く後世に伝えていきたい。また、立体農業の考えをとり入れた街づくりをしていきたい」と話されています。

2017年12月22日まで開催中

友愛労働歴史館企画展 賀川豊彦と友愛会・総同盟

幅広い社会活動をした賀川豊彦を労働運動の側面からみる企画展です。賀川が友愛会活動に参加して100年の節目に際し企画されています。

〒105-0014 東京都港区芝2-20-12 友愛会館8階 TEL 050-3473-5325
都営三田線 芝公園駅徒歩1分 詳しくは<http://yuairodorekishikan.com/>

友愛労働歴史館は、友愛会館（三田会館）の8階にあり、戦前を中心に労働運動史の歴史を常設展示しています。今日の労働運動の源流と言われる友愛会の創設者鈴木文治のほか、吉野作造や新渡戸稲造とともに賀川豊彦の労働運動への関わりが展示され、当時どのような交流がもたれていたのかわかります。また、アメリカ留学からの帰国後5年間で賀川が労働運動の分野で成し遂げた実績の大きさに触れられ、人格主義や友愛精神といった「賀川イズム」が労働運動に継承された経緯なども、たくさんの肖像画や図表、フィルムなどを通して視覚的に、学ぶことができます。

市川房枝や阿部静枝、さらにNHK朝の連続テレビ小説『花子とアン』で仲間由紀恵が演じた柳原白蓮など、婦人運動についてもパネルが展示されています。間宮悠紀雄事務局長のナビゲートで、ほかの館では見ることのできない賀川豊彦をめぐる人物模様のパノラマを体験してみましょう。交通アクセスのよいJR田町駅から徒歩圏内の同ビルには、ホテルもありますので、東京出張の際に利用して、覗いてみてはいかがでしょうか。

取材協力：伊丹謙太郎氏（千葉大学）